

アライグマの目撃情報を募集しています

アライグマは北アメリカ原産の外来種です。日本では1970年代にアライグマを題材としたアニメが放映され、ペットとして多くのアライグマが輸入されました。しかし、成長すると性格が荒々しくなる個体が多く、飼いきれなくなると野外に放されたり、もしくは檻から逃げ出したなどした個体が繁殖・増加し、全国各地で定着が進みました。

現在では『外来生物法』により『特定外来生物』に指定されており、飼育・保管すること、生きたまま運搬すること、野外に放つことなどが原則禁止されています。

アライグマの特徴

- ★ しっぽの縞模様
- ★ 鼻筋の黒い線
- ★ ヒゲは白く目立つ
- ★ 5本の指がはっきり分かれた足跡



アライグマを見かけたり、被覆にあったりした場合は、センターに情報をお寄せください。

一番の見分けポイント!

アライグマによく似ている動物と特徴

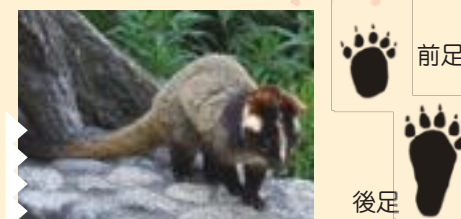
タヌキの特徴

- ★ しっぽは短く、縞模様はない
- ★ 花模様似た足跡
- ★ ヒゲは黒く目立たない



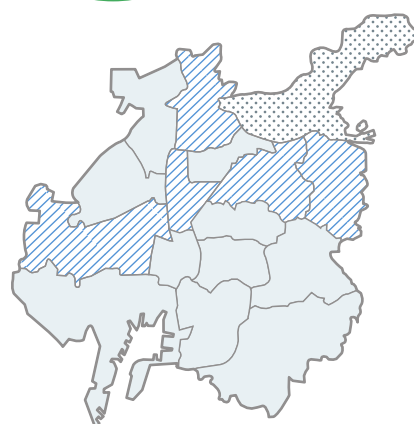
ハクビシンの特徴

- ★ 顔の中央に白い線がある
- ★ しっぽは長く、縞模様がない
- ★ 足は短く、体全体が細長い
- ★ アライグマに比べ体は小さい



H28年度アライグマ捕獲実績

- 0
- 1~10
- 11~20



生きものを野外に放さないで

ペットを野外に放すと、もともとそこにいた生きもの（在来種）のすみ場所や食べ物を奪うなど、生態系に悪影響をおよぼすおそれがあります。また、農業被害や生活被害を引き起こすかもしれません。一度定着した外来種を完全に防除することは大変難しいため、生きものを野外に捨てないことが大切です。

外来種の中には、ペット由来のものも少なくありません。ペットは命ある生きものです。飼う前には、どのくらい大きくなるのか、寿命はどのくらいかなど、事前によく調べて、飼ったら最後まで責任をもって飼いましょう。

名古屋市において確認された「ヒアリ」について

平成29年8月30日(水)に名古屋港船見ふ頭(名古屋市港区)で発見されたアリについて、専門家による種の同定の結果、特定外来生物ヒアリと確認されました。発見時に確認された個体は、すべて殺処分されています。

ヒアリを見つけたら

強い毒を持つため、触らないようにしてください。なお、市販のアリ用殺虫剤で駆除が可能です。

ヒアリに刺されたら

ヒアリに刺されると、毒により激しい痛みを覚え水疱状に腫れ、アレルギー反応を引き起こす可能性があります。容体が急変したときは速やかに最寄りの医療機関を受診してください。

相談窓口

名古屋市では、疑わしいアリが見つかった場合等、ヒアリに関する相談は各区の保健所が窓口となります。
【各区保健所生活環境課環境衛生担当】
[http://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/19-9-2-0-0-0-0-0.html](http://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/19-9-2-0-0-0-0-0-0.html)

名古屋大谷高等学校 化学部

瑞穂区高田町4丁目19

生物や化学実験など、みんなが同じテーマに向かって活動に励んでいる名古屋大谷高等学校化学部。現在の所属部員は10名で、『まずは自分たちが楽しく、その楽しさを共有すること』をモットーに、多彩な分野に挑んでいます。

これまでに手掛けたテーマは、カブトムシ・クワガタムシの生態調べや、昆虫の樹脂標本の作成。さらには、愛知サマーセミナーへも参加。最近では、生態系調査の一環として、年々減少しているインガメや、山崎川や東海三県の珍しい魚の飼育にもチャレンジ。将来は、繁殖や生態系の観察・研究にまで広げる予定です。

また、毎年夏休みを利用して、山崎川の水質調査・生態系の調査も実施。化学部だけに、様々な薬品や実験器具を駆使し、河川の水質分析や、酸素量調査を経て、河川の環境を推測。生態系への影響まで考察する研究を進めてきました。

こうした調査・研究の成果は、校内の文化祭をはじめ、なごや生物多様性センターまつりのユースひろばのブースでも発表されてきました。そして今後は、こうした活動や

分析データを論文にまとめるとともに、野外活動を増やすなど活動範囲を拡大したいと意気込んでいます。



掲示板

ぜひお越しください!
平成29年 10月28日(土) 10:00~15:00
会場 なごや生物多様性センター
入場無料 小雨決行

なごや生物多様性センターまつり

今年でセンターまつりも4回目!ブース出展からパネル展示、生きもの展示など、自然や生きものについて、子どもから大人までみんなが楽しみながら学べます。

- 外来種ブラックバスの試食
- 水辺の生きものとのふれあい
- チリメンジャコの中からモンスターを探そう
- その他、さまざまな展示や体験コーナー など



生物多様性ユースひろば

高校の生物部等の学生達が集まり、日頃の活動を発表します。



「市民生きもの調査員」に登録しませんか?

生物調査や講習会、イベントなどの実施情報を直接メールでお届けします。どなたでも登録できます。詳しくは協議会ウェブサイト!

問い合わせ・申し込み先

発行：名古屋市環境局なごや生物多様性センター

住所 〒468-0066 名古屋市天白区元八事五丁目230番地 (地下鉄塩釜口駅2番または3番出口から徒歩5分)
電話 052-831-8104(平日 8:45~17:30) FAX 052-839-1695
E-mail bdnagoya@kankyokoku.city.nagoya.lg.jp

- なごや生物多様性センターウェブサイト <http://www.kankyo-net.city.nagoya.jp/biodiversity>
- 名古屋市公式サイト <http://www.city.nagoya.jp/> [なごや生物多様性センター] 検索
- なごや生物多様性保全活動協議会 <http://www.bdnagoya.jp>



生きものシンフォニーのバックナンバーは、なごや生物多様性センターのウェブサイトでご覧いただけます。

生きものシンフォニー

いのちかがやくなごや

平成29年9月 22号

特集

なごや生物多様性サマースクール2017

身近な自然や生きものとふれあう夏休み。好奇心くすぐる13講座のなかで、子どもたちはどんな体験をしたのでしょうか。



7月22日(土) 昆虫生息調査 (講師: 荒池ふるさとクラブ)



7月22日(土) 翠松園緑地の昆虫探し (講師: 二ツ池の自然と緑を守る会)



7月23日(日) 葉っぱの力! 標本を作ろう & 葉っぱを味わおう (講師: 相生山緑地自然観察会)



7月8日(土) チョウ・甲虫の採集と標本作り (講師: 名古屋昆虫同好会)



8月5日(土) 東山の森の落ち葉と土の中の生きものたち (講師: NPO法人なごや東山の森づくりの会)



7月27日(木) 矢田川・香流川の生きもの調べ (講師: 名古屋市環境科学調査センター)



7月31日(月) 巣箱を作って森に小鳥を呼ぼう! (講師: 相生山緑地オアシスの森くらぶ)



8月1日(火) 生きものが棲む猪高の水を調べよう (講師: 名東自然倶楽部)



8月5日(土) 竹林調査と水鉄砲作り (講師: 花水緑の会(大高竹の会))



8月6日(日) チリメンモンスターを探せ! (講師: 「あいちの海」グリーンマップ)



8月6日(日) 天白川の水源地を訪ねてみよう (講師: 名古屋自然観察会)



8月9日(水) 大矢川源流域の生きもの調べ (講師: 愛知守山自然の会)



8月10日(木) 池のプランクトンの世界 (講師: 滋賀県琵琶湖環境科学調査センター・名古屋市環境科学調査センター)

CONTENTS

特集	なごや生物多様性サマースクール2017	P1~3
TOPICS	なごや生物多様性センターの標本について	P3
	ウラシマソウ【浦島草】(デンナンショウ属)のはなし	P4
	アライグマの目撃情報を募集しています	P5
	名古屋市において確認された「ヒアリ」について	P5
活動紹介	名古屋大谷高等学校 化学部	P6
掲示板	なごや生物多様性センターまつり・生物多様性ユースひろば	P6

川や森の中の生きものを調査したよ! なごや生物多様性サマースクール2017

「なごや生物多様性保全活動協議会」では、身近な環境に棲む生きものや自然をテーマに講座を開催しています。さまざまな生きものとふれあい、観察し、不思議を学ぶ全13講座。そのなかから2講座の様子をご紹介します。(悪天候のため、1つの講座が中止となりました)



7月27日(木) 矢田川・香流川の生きもの調べ

講師 名古屋市環境科学調査センター
場所 矢田川・香流川/香流橋地域センター



庄内川水系の一級河川、矢田川と香流川は千種区で合流します。今回は、この2つの川が合流する手前を拠点に、どんな生きものがいるかを調査しました。

当日は、雨で増水したこともあり、子どもたちは香流川でのみ生きもの採集を実施。一方の矢田川での採集は、スタッフだけで行いました。その方法は、タモ網を下流側に置き、足で追い込むので、次々と捕らえた生きものを一人ずつバケツに収集。魚やカニ、エビなど色々な生きものが捕れるたびに、子どもたちは大はしゃぎ。その後、香流橋地域センターに持ち帰り、観察を行いました。

香流川では、モクズガニやシマインビル、タイワンシジミなど9種類を採集。トビケラやカゲロウなど小さな生きものも捕れました。矢田川で捕獲したのは、ニゴイヤカマツカ、テナガエビなど13種類で、そのなかには特定外来生物であるブラックバス、カダヤシ、ウシガエルのオタマジャクシもありました。講師の方によると、「今回は

条件が良くなかったが、矢田川の方が生きもの種類が豊富だった」とのこと。

参加した子どもたちは、似た魚の見分け方や特徴をノートにとるなど、熱心に学んでいました。



8月5日(土) 東山の森の落ち葉と土の中の生きものたち

講師 NPO法人なごや東山の森づくりの会
場所 「東山の森」「里山の家」



都市部ではとても貴重な、広大な自然が残されている「東山の森」。この森には一体どんな生きものが棲み、どんな役割を果たしているのでしょうか。



TOPICS

なごや生物多様性センターの標本について

なごや生物多様性センターでは、なごや生物多様性保全活動協議会の活動で得られた標本や専門家からご寄贈頂いた標本、また当センターの専門員が調査して得られた標本などを保管・管理しています。平成29年8月現在で収蔵している標本数は、植物標本約2,200点、哺乳類標本約200点、昆虫標本約2,300点、貝類標本約200点で、その他に鳥類、魚類、甲殻類、両生類、は虫類、藻類等を整理中です。

標本情報は、国立科学博物館が運営している標本情報の公開システムであるS-Net(サイエンス ミュージアム ネット <http://science-net.kahaku.go.jp/>)への登録を進めており、順次インターネットから閲覧が可能になります。S-Netでは、日本全国の70以上の博物館や大学等が参加しており、400万件以上の自然史情報がみられます。また、S-Netに登録された標本情報は、地球規模生物多様性情報機構が運営するGBIF Portal(Global Biodiversity Information Facility, 2001-)にも英語で登録され、海外にも公開されます。

当日、参加者らは3班に分かれて森へ入ると、前日に仕掛けたバイトトラップを回収。バイトトラップとは、餌で生きものを誘い込んで捕まえる器具です。ペットボトルを半分に切り、それを地面の高さに埋め、ニポンヤカツオ、モモの皮、梅酒に漬けたウメなどの餌(=バイト)を入れて誘います。あわせて、移植ごてやシャベルを使って、生きものが潜みそうな落ち葉と土壌の境目の土も採集しました。

これらを持ち帰り、その土壌をバットに広げて、いよいよ生きもの観察を開始。土壌をじっと見つめ、生きものを見つけるとピンセットでそっとつまみ、チャック付き小袋の中へ。体が細長い・翅があるなどに分類します。この日は、ミミスズゴミムシ、ワラジムシ、カメムシ、ヤスデ、その他にもたくさんの生きものを発見できました。

この土壌動物のうち、植物食の生きものは土の上に落ちた葉などを食べ、そのフンは植物の栄養として役立っているというお話に、参加者全員が感心して聞き入っていました。こんなに小さな生きものにも重要な役割があることを知った一日になりました。



ウラシマソウ【浦島草】(テンナンショウ属)のはなし

今春に名東区猪高緑地でウラシマソウ(テンナンショウ属)を採集して標本を作製しました(写真1)。**【標本番号: NBC-NP.2156、2017年5月に猪高緑地に採集】**

ウラシマソウは、サトイモ科テンナンショウ属、単子葉類の多年生草本で、花期は4月~5月、分布は北海道西南部、本州中国地方以北、四国です。名古屋市版レッドリスト2015で準絶滅危惧に選定されており(環境省・愛知県: リスト外)、名古屋市では、これまでに緑区、熱田区でのみ確認された記録があります。



写真1

テンナンショウ属の巧みな繁殖方法

【 巧妙なトラップ式の花序 】

「ウラシマソウ」は長く伸びた器官である付属体を浦島太郎の釣り竿に見立てて命名されました(写真2、3)。本種はこの付属体で花粉を運ぶ昆虫(主にハエ類)を花を包んでいる仏炎苞の内部におびき寄せます。その様は、まさに釣りをしているようです。「仏炎苞」はミスバショウなどと同じく、花を苞葉が包みこんでいるもので、仏像の後背の仏炎に似ているためこのように呼ばれています。



写真2

写真3

植物にも見えますが、食虫植物ではなく虫の養分は吸収しません。

仏炎苞は、一度中に入った昆虫が外に出られないようにねずみ返し機能をもつ構造になっており、中に入った昆虫は仏炎苞の中で繰り返し出口を求めて移動することになります(写真6)。この際に、雄花では**大量の花粉が昆虫に付着することになります**。トラップ式の仏炎苞ですが、実は雄花の仏炎苞の下部にだけ穴(仏炎苞の合わせ目の隙間)があり、花粉を付けた昆虫が外に出られるようになっています。その昆虫が、雌花に到達したときに受粉が行われます。

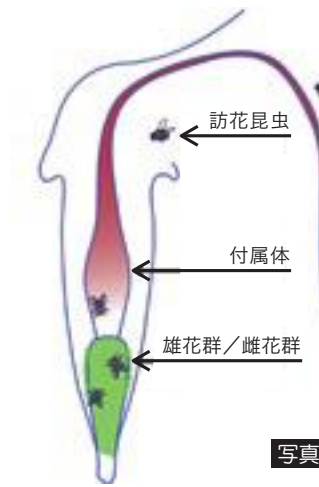


写真6

【 個体サイズによる性転換 】

テンナンショウ属の多くの種は、性別が個体のサイズ(球茎のサイズ)に依存して変化します。「雄と雌の繁殖上の有利さがサイズによって異なる場合に性転換が進化する」というサイズ有利仮説が本属には該当するようです。このため、サイズが小さいときは雄の個体が多く、栄養状態が良く一定のサイズ以上に成長すると雌になる個体が増えます。一つの株を毎年観察すれば、性転換が確認できるでしょう。

なお、サトイモ科に属していますが、毒をもっているため、くれぐれも食べないようにしてください。

【参考文献】■西沢徹(2014):性転換する植物。緑と水のひろば75。公益財団法人東京都公園協会広報誌、18-19 ■監修・林弥栄、改訂版監修・門田裕一(2013):『野に咲く花増補改訂新版』(山溪ハンディ図鑑1)、山と溪谷社 ■改訂版監修・門田裕一(2013):『山に咲く花増補改訂新版』(山溪ハンディ図鑑2)、山と溪谷社

(生物多様性専門員 長谷川泰洋)